

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401300		
法人名	有限会社ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホーム おもひで		
所在地	函館市東山3丁目2-4		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型ホームで、純和風住宅でインテリアに欄間を使い、昔懐かしい雰囲気を残し、家庭的な環境を壊さないようにしている。純和風の大きな中庭は、四季により様々な景色を楽しむことが出来る。日頃から外出の機会を多く持ち、季節を感じてもらえるよう、季節ごとの行事や食事作りにも力を入れ、ご家族様にも行事に参加してもらい、入居者様・ご家族様・職員と深いつながりが持てるよう日頃から努めている。地域の行事にも参加させてもらい、積極的に地域の方との交流も深めている。適宜開催しているケアカンファレンスや会議では、ご家族様・職員の意見や要望を聞き、理念を共有し職員の想い一つにして、ケアの質の向上や運営に反映させている。職員は、研修や勉強会に積極的に参加し、知識や技術、ケアの質の向上に努めるだけでなく、他施設との交流を深めネットワーク作りもしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401300-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は閑静な住宅地に位置し、建物は民家改造型で周囲の風景に溶け込んでおり、落ち着いた雰囲気のあるホームである。大きな平屋建てのホームは民家を改築して使用しており、庭には灯籠や庭石等が配置され、季節を通して格好の憩いの場となっている。このホームの優れている点は、利用者全員の介護計画(ケアプラン)の実行及び進捗状況が毎日モニタリングされ、業務日誌で報告、確認されていることである。介護計画で示された短期目標等は、日々生活支援のなかで実行確認を必要とするが、日常の煩雑さに埋没する危険性があることは歪めない。しかし、当ホームでは個人の介護日誌ではなく、業務日誌に全員のモニタリングを記載し、介護職員全員が毎日確認できるよう工夫されている。介護計画とモニタリングの両軸が機能的に連動し、利用者の生活を目的に向かって支えている介護の実践は高く評価できる。また、排泄用語を記号化するなどの利用者への気配りも徹底されている。利用者の安心な生活と介護者のケアの質の向上への取り組みに、今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の人格を尊重し、そのらしさを支え、この地域で共に「おもひで」をつくっていく理念をかがげ、毎日、職員で理念を唱和し、思いを一つにし実践に繋げている。	理念を玄関や居間、事務室等の目に触れるところに掲示し、また毎朝職員で唱和し、ケアの実践で理念を忘れないように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、夏祭りや餅つきなど町会行事に参加したり、回覧板と一緒に回したりしている。避難訓練には、町会の方にも参加していただき、庭で取れた落を近所の方にお配りするなど、地域近隣の方と交流をはかっている。	町内会に加入し、回覧板を利用者へも回覧し、町内に馴染むよう取り組んでいる。夜間でも職員がいることを地域に周知し、駆け込み寺的な存在になれるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北海道認知症地域コーディネーター養成講座を修了した職員がおり、中心となって認知症に悩む方々への、認知症介護のアドバイスをしたり、相談も随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催しており、意見や要望をお聞きし、サービスの向上を目的とした意見交換を行い、会議での意見は職員間で共有し、サービス向上に活かしている。また、改善が必要な時には、職員で共有し話し合い改善に努めサービス向上に繋げている。	包括や町内会役員等の参加を得て2ヶ月毎に開催し、議事録についても利用者家族に送っている。意見や要望把握だけではなく、地域で一緒に行えること等を検討し、利用者のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護高齢福祉課や地域包括支援センターに相談し、アドバイスをもらったり、情報を得るなど連携を取り、協力できる体制を築き、サービスの向上に努めている。	行政の窓口や包括センターとは親密に意見を交換し、また、アドバイスや指導を受けながら、より積極的な関係になるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受講した職員が中心となって、ミーティングの際に、転倒などのリスクに対して、介護上の工夫を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアとして、精神的な側面からだけではなく、転倒のリスクについて予防やケアの工夫等を実践的に話し合っている。ケアの中での抑制や制御についても、職員間でお互いを注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度、職員全員が研修に参加しており、日頃より言葉使いにも心掛け、ミーティングや会議の際に、管理者を中心としてケアの状況により指導したり、全員で討議環境を作らないよう努め、虐待防止している。職員同士で入居者様の身体及び精神状態の細かな変化に気付けるよう、細かな観察を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様はいないが、権利擁護の研修を終了している職員がいるので、随時対応できる体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に時間をかけ余裕のある時間で行い、サービス内容など説明し、その都度疑問点などないか確認している。改定時も、文書で説明し理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見交換できるよう日頃よりコミュニケーションをとり、気軽に言って頂けるよう、雰囲気作りに配慮し、ご家族様との信頼関係の構築に努め、意見や要望をお聞きし運営に反映させている。重要事項説明書には、受け付け窓口、責任者の電話番号、第三者機関の相談窓口も明示している。	ホーム便りを年2回から5回に増やし、多くの情報を利用者家族宅に送るよう努めている。また、家族の来所時には意見の聴取に努め、積極的に事業所運営に反映するよう努めている。	ホーム便りの増便について、評価できる取り組みではあるが、より踏み込んだ意見の取り込み策として、アンケートの実施等の工夫に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンス以外でも、運営に関しての意見や提案を話しやすい雰囲気を作り、管理者が意見をまとめて運営者に伝えている。また、個人面談も行っており職員の意見や提案を聞いている。職員からの入居者様が重度化してきたとの意見を聞き、運営者は職員を増員した。	個人面談を年に数回実施しており、いつでも意見を受け入れる体制を構築している。いくつかの提案は具体化されており、会議等での積極的な姿勢による意見は集約され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、職員の離職などで入居者様を受けるダメージを把握し、福利厚生面についても、職員の希望を取り入れるよう努力している。また、リフレッシュできるよう、連休や希望休を職員には取ってもらっている。職員からも、環境が良いので向上心を持っているという声が上がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は、職員の段階に応じ、研修会に参加してもらい、受講後は、報告し職員で共有し、職員の意識向上や技術の向上に努めている。職員からは、様々な研修を受ける機会を確保してくれるので、勉強になるという声が上がっている。また、国家資格受験の応援にも努め、働きながら介護福祉士や介護支援専門員試験を受験する職員がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、勉強会やブロック会議などで交流があり、研修への参加も多いので、意見交換や交流を深められており、サービスの質の向上に大きく影響がある。また、職員の参加希望も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まったら、来訪してもらい居室や雰囲気を見てもらったり、管理者が自宅を訪問してもらい、ご本人・ご家族様とよく話し合う機会をもうけ、入居前に不安が解消できるよう努め、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まったら、電話連絡を取り合い、ご本人様と一緒に来訪してもらったり、管理者の自宅訪問時に立ち会ってもらい、不安や要望など話し合う機会をもうけ、解消できるよう努め信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・介護支援専門員は、ご本人・ご家族様に事前に情報確認し、他サービス事業所や医療機関に問い合わせながら、最適なサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを大切に、生活の中で活かしていけるよう一緒に買い物や家事をしたり、一緒に食事を摂ったり共に過ごし、会話を大切に、家族のような存在になれるよう良い関係づくりに努めている。一方的なケアにならないよう、相手の立場になって想いをくみ取っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	総合的支援が出来るよう関係づくりに努め、電話や来訪時に、入居者様の様子を伝え、ご家族様からもご要望をお聞きし、時には入居者様に安心してもらえるよう声をかけてもらうなどし、職員と共に入居者様を支えてもらっている。また、行事にも多く参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の知人の面会もあり、友人同士で食事に行かれたり、いつでも外出もし、なじみの方との関係が継続して行けるよう支援している。入居前からの習い事、なじみの美容室、病院などへも継続して通えるよう支援している。	家族をはじめ近隣の知人・友人の来訪があり、外出も継続できるように支援しており、入所前に利用していた店での買い物や病院利用等、馴染みの関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者様の相互関係に配慮し、性格等も細かく把握し、より良い関係づくりが出来るよう支援し、トラブル発生時は、職員間で話し合い早急に原因を把握し、助言・仲介しお互いが不快な思いをしないよう係わっている。また、入居者様同士も助け合い、協力し過ごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し入院となった方へ、寄せ書きを贈ったり、お見舞いに行ったり、その際、ご家族様と今後のことを話し合ったりし、それまでの関係を断ち切らず、関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	動作や表情から思いをくみ取り、困難な方には、ご家族様から希望や要望、意見をお聞きし、その方の立場になって職員間で検討し支援している。	日常生活に沿って支援するためには、思いや意向の把握が不可欠であることを利用者に寄り添いながら理解し、本人本位の生活になるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人・ご家族様に生活歴、ライフヒストリー等を聞き取りし、その後も、大きく生活が変わらないよう、今までの生活が継続できるよう情報収集し、一人ひとりの暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの人格を尊重し、出来ること出来ないことを把握出来るよう、細かく観察し記録に残し、職員間の情報を密に、出来ないこと介助が必要な事を援助し、現状の能力を総合的に判断しケアしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況を申し送りし、日誌に記録している。アセスメントをとり、入居者様・ご家族様の意見や要望をお聞きし、カンファレンスを開き、ご本人の現状にあった介護計画を作成している。状態変化時は、すぐに介護計画の見直しを行っている。	ケアプランの作成には、段階的に職員全員が係わるように努めている。プランに添った生活の支援についても、日々業務日誌に全利用者の進捗状況を記録し、プランの目標達成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に日常生活の様子を記入し、ケアプランの記入欄もあるので、介護計画の実践や見直しに活かし、職員間で情報を共有している。入居者様にとって、より生活しやすい環境づくりに配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望や、かかりつけ医の受診・美容室への送迎等、ご家族様が困難な時、事業所が変わって柔軟な支援をしている。様々なニーズに対し、職員同士話し合い、サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で外出する際は、必ず事前に連絡している。また、町内会のお祭りや餅つき等では、踊りや餅作りなど、個々の出来ること、興味のあることに参加してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を変えることなく、継続受診しており、ご本人・ご家族様の希望するかかりつけ医への受診支援の他、医療連携している主治医の往診も行っている。また、24時間体制で診てもらえるよう、夜間の体制も整えている。	利用者と家族の意向を大事に医療受診に取り組んでおり、協力医の往診も活用しながら、安心できる医療の提供に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の看護師による定期的な訪問看護日に、医療相談や細かな変化でも状態報告し、処置してもらったり、アドバイス・支持をもらい実践することで、重症化とならないよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院する際は、職員も付き添い情報提供し、今後の方針など医師や他職員と相談している。また、定期的に医療機関と連絡を取り、お見舞いにも行き、今後の方向性を相談員と話し合うなど、積極的に関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは、終末期の事柄について重度化・看取りに関する方針を説明し、同意を得ている。医療連携している主治医とは、24時間体制で連絡相談ができる体制で、ターミナルケアの際には、細かく指示をもらい連携を計っていた。出来る事・出来ないことを明確にし、職員間で方針を共有している。	終末期の看取り介護について、指針を明確化し初期の段階で本人家族に説明している。出来る限り、本人と家族の意向に沿えるよう、職員一同共通の認識に立ちながら重度化した場合に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを見やすい場所に掲示しており、全職員が周知している。必要に応じて、主治医・看護師より、アドバイスや指導してもらい実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち会いで避難訓練を実施している。地域の方やご家族様にも参加してもらい、災害時は協力を得られるよう体制が出来ており、道南GH協会Bブロックでも、災害時の協力体制が出来ている。スプリンクラー設置義務対象外だが、前年度設置している。	年に2回、夜間想定を含めた避難訓練を消防署の指導のもと実施している。運営推進委員や地元住民の参加の他、グループホーム協会道南ブロックの協力体制も整備されており、災害対策に積極的に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、言葉遣いや態度に注意し、職員間で気付いたことは振り返り、気付き合うようにしている。排泄は、職員間で暗号で報告し合いプライバシーに配慮している。	人格やプライバシーの尊重を常に意識している。具体例としては、排泄関連用語を記号化し、直接的な表現にならないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に応じて選択肢を増やし、入居者様の希望や意見を尊重し、自己決定して頂くよう働きかけ、気持ちを引き出せるよう、待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的支援にならないよう、日頃から会話を多く持ち、表情などから思いをくみ取り、その日の体調も配慮し支援している。職員は、入居者様のご希望に添えるよう、花見やドライブ、買い物や外食等の様々なことに柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望や生活背景を理解し、好みのヘアスタイルにしたり洋服を選んでもらったりし、季節や気温、好みに配慮しおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が出来ること、自信のあることを継続して行けるよう、一緒に食材選び、調理・配膳・片付けを行い、量や大きさ等提供の仕方も配慮している。季節の食材を取り入れたり、外食や出前を取るなど楽しく食事を摂ってもらっている。	週間のメニュー表は作っておらず、利用者の希望や旬を大事にした調理に取り組んでいる。食事の各段階で利用者に手伝いをお願いし、外食や出前を含め楽しい食事になるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、不足時は、補食やゼリー等で補い、入居者様の嗜好品も把握して提供している。特に目立った減量時は、主治医に診てもらい、状態により高栄養ドリンクの指示がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員全員が理解し、毎食後、口腔ケアを行っている。その方に合った歯科用品を使い、状態に合わせて介助し、口腔内の異常や義歯不具合時は、すみやかに歯科受診している。また、職員に歯科衛生士がいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレサインを見逃さず、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導し、汚染を少なくトイレでの排泄を促し、オムツ用品を外せるよう支援している。	トイレでの排泄を優先している。日々の支援から排泄サインを見逃さず、かつ、直接的な表現を何気ない言葉に変えて表現し、誇りを傷つけないよう工夫して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、排泄介助時の腹部マッサージや温あんな法、オリゴ糖や牛乳、乳酸菌の飲用、食物繊維を多く含む食材の提供をし、適度に体を動かすよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介護ご希望の方には、同性職員で入浴できるよう配慮し、入浴を好まない方にもゆっくり入浴して頂けるよう、好きな音楽を流し雰囲気作りから始めている。体調にも配慮し、体調に合わせた時間帯で入浴を楽しんでもらっている。	週に2回以上を目処に入浴の支援に取り組んでいる。拒否者や好まない方には、音楽を流したりリンゴ風呂を用意したりと雰囲気作りから始め、無理強いをしない、楽しい入浴になるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンに合わせて就寝時間に配慮し、季節に応じた加湿や室温にも配慮している。眠れない時は、居間で職員とお話し、落ち着いた気持ちになって休んでもらっている。また、疲労や体調に合わせて休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬情報を個人記録に挟み、入居者様が服用している薬の副作用や目的をいつでも確認できるようにしており、いつも目を通し把握に努め、理解し、身体状況の変化に留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と買い物に出かけたり、家事などの得意な事を発揮できる場を設け、四季に応じた行事やアルコールを飲まれる方もいる。入居前からの習い事を続けている方もおり、関係を断ち切らず外出での気分転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や通院等、個々に合わせた外出支援し、季節ごとのお花見や夏祭り、ドライブなど行き、季節を感じてもらえるよう日頃より戸外へ出かけられるよう支援している。地域のイベントにも参加させてもらい、回覧板と一緒に届けに行くなど地域の方にも理解と協力をしてもらっている。	季節ごとのドライブや花見等で、季節を楽しめるよう支援している。昼食を外食にしたり、ホームの純和風庭園でお茶会を催したり、また、散歩を含め屋外で多彩な活動ができるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない方は金庫でお預かりし、外出時に、お財布を持ってもらい、会計時に職員が付き添い支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からお荷物が届いた時、お礼の手紙をご本人にも書いてもらったり、電話でお話してもらうよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくりカレンダーで日にちを確認してもらったり、居間の大きな窓からは、中庭を見て季節を感じてもらい、天気の良い日は、廊下からウッドデッキに出て日光浴をしたりと気分転換をはかっている。季節に応じて飾りつけをし、季節を感じてもらえるよう工夫している。	建物が純和風の造りであり、随所に古筆箆や古い家具を配置し、落ち着いた佇まいとなっている。飾りつけも華美さはなく、共同空間である居間についても、ゆっくりとみんなが集えるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・縁側にソファやベンチを置き、中庭を見ながら入居者様同士会話を楽しんだり、廊下から出られるウッドデッキで外気浴をしたり、思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇を持ってきて頂き、ご本人の使い慣れた物やお好きな物を置き、ご家族様の写真を飾るなどして、居心地良く安心できる居室になるよう配慮している。	馴染みの家財や家具が思いのままに置かれており、家族の写真や思い出の品もたくさん用意されており、自室としての安心感を得るための配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札を置き分かりやすくし、入居者様の共有場所には各箇所に手すりが設置されており、安全に立ち上がりや歩行が出来ている。台所では、職員と一緒に立ち安全に家事が出来る。		